

第3章 医療との境界で注意すべき施術と考え方

3-1 施術内容を適切に判断するために

エステティックサービスは、原則として健康な人を対象として、美容の維持・向上及び心身のリラクゼーションを目的として提供されるものです。

一方、施術の内容や方法によっては、身体に与える作用が大きくなり、医療との境界が問題となる場合があります。

施術が適正な業務範囲に該当するかどうかは、施術の名称や美容目的であるか否かだけでは判断できません。

重要なのは、

- ・ 施術の目的
- ・ 身体への作用
- ・ 医学的判断の必要性
- ・ 使用する機器又は薬剤の特性
- ・ 顧客の安全性

などを総合的に考慮することです。

3-2 施術の目的を明確にする

エステティックにおいて最も重要なのは、「何を目的として施術を行うのか」を明確にすることです。

例えば、

- ・ 美しい肌を保つためのスキンケア
- ・ 身体を清潔に保つためのケア
- ・ リラクゼーションを目的としたトリートメント

などは、美容を目的とするエステティックサービスとして位置付けられます。

一方、

- ・ 疾病の改善
- ・ 症状の治療
- ・ 医学的な改善を目的とする施術

は、エステティックの目的とは異なります。

施術を検討する際には、「美容の維持・向上」「心身の癒し」を目的とするものであることを常に確認する必要があります。但し高齢者や既存疾患がある場合でも病状が安定しており、担当医の許可がある場合には、顧客に癒し効果を提供することで生活の質改善につながる可能性があるのを社会的啓発すべきです。顧客の心身状態を把握できるような社会的信頼性の高いエステティシャンならば高齢化社会、疾病社会での社会貢献が期待されます。

3-3 身体への作用を適切に理解する

エステティックで使用する美容機器や化粧品は年々進歩し、多様化しています。しかし、使用する機器の性能が向上したとしても、エステティックの業務範囲が広がるわけではありません。

施術に伴う身体への作用が大きくなるほど、安全性の確保がより重要になります。

特に、熱、光、超音波、電気等を利用する美容機器については、

- ・機器の特性
- ・使用目的
- ・使用方法
- ・禁忌事項
- ・リスク

を十分理解した上で取り扱うことが求められます。

3-4 カウンセリングにおける確認事項

安全な施術を行うためには、施術前のカウンセリングが極めて重要です。

確認すべき事項として、次のような内容が挙げられます。

- ・現在の健康状態
- ・既往歴
- ・通院・治療の状況
- ・妊娠の有無
- ・アレルギー歴
- ・使用中の医薬品 ・生体内金属挿入の有無
- ・肌状態
- ・美容医療の施術歴

これらの確認は、診断を行うためではなく、安全に施術を行うために必要な情報を把握することを目的としています。

3-5 医療機関への受診を勧めるべき場合

施術前又は施術中に、医学的な確認が必要と考えられる状況が認められた場合には、施術を優先するのではなく、医療機関への相談を勧めることが適切です。

★例えば、施術予定あるいは施術中の肌状態で

- ・赤みやぶつぶつ、炎症が著しい場合
- ・出血や化膿が認められる場合
- ・強い痛みや腫れがある場合
- ・原因が明らかでない肌変化（色調・硬さ・萎縮）がある場合

適切な受診を勧めるべきで、エステティシヤンの重要な責務の一つです。

★医療機関で治療中の部位については、医学的な評価を優先する必要があります。

3-6 施術を見合わせる判断

安全管理の観点から、施術を行わないという判断が必要となる場合があります。

施術を希望されている場合であっても、

- ・安全性が確認できない
- ・禁忌事項に該当する
- ・身体状態に不安がある
- ・医学的確認が必要と考えられる

場合には、施術を見合わせることを望ましいと考えられます。

施術を断ることはサービスの拒否ではなく、安全を守るための専門的判断であることを顧客に理解させることができるような能力が求められます。

3-7 本章のまとめ

エステティックと医療の境界は、「美容か医療か」という単純な区分ではなく、施術の目的、身体への作用、安全性及び医学的判断の必要性を踏まえて総合的に考える必要があります。

エステティシヤンには、専門知識と技術に加え、適切な判断力と高い倫理観が求められます。